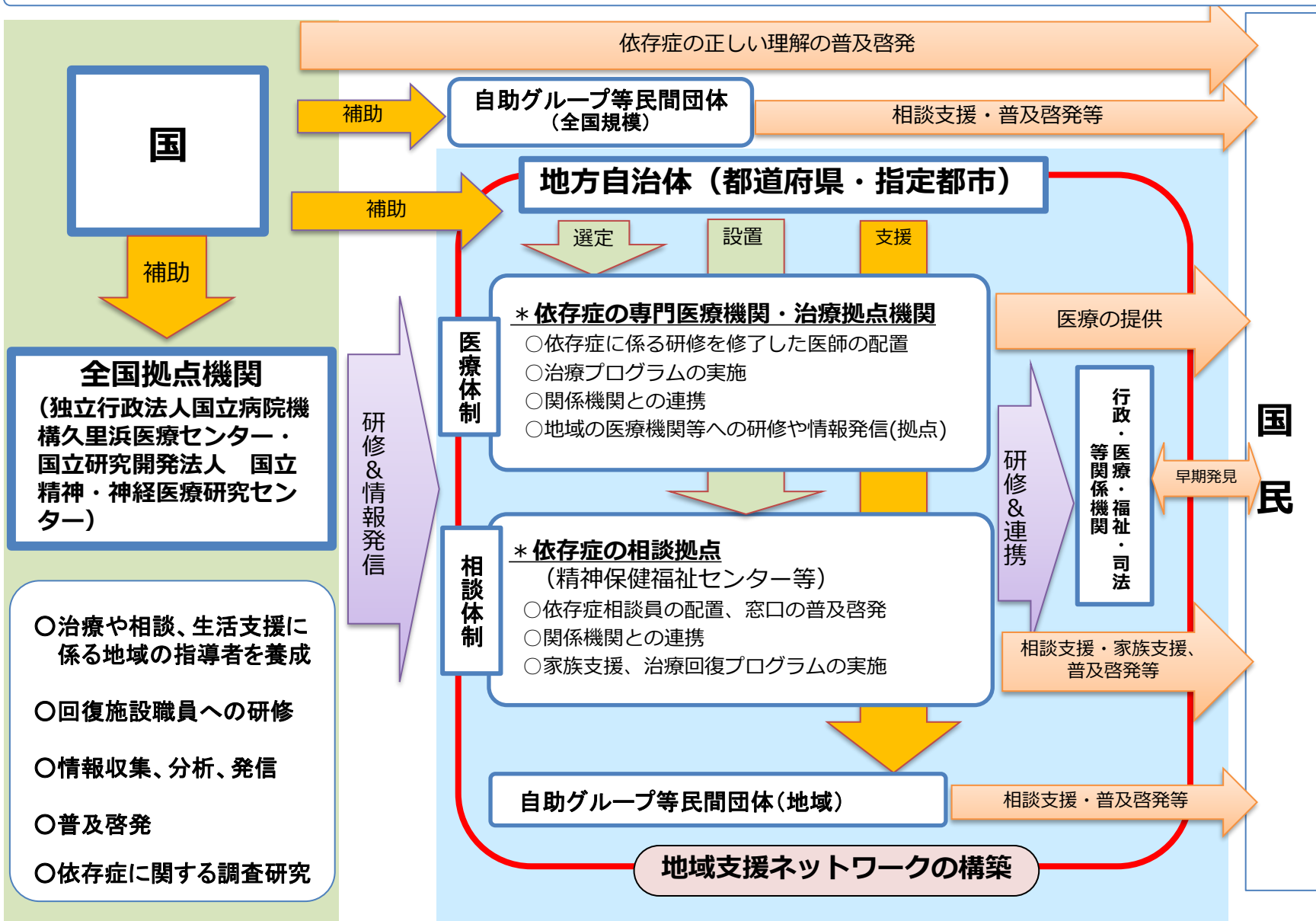


## 厚生労働省の依存症対策について

厚生労働省  
障害保健福祉部精神・障害保健課  
依存症対策推進室

# 依存症対策の全体像

○依存症対策（アルコール・薬物・ギャンブル等）については、各地域における支援ネットワーク構築、全国拠点機関による人材育成・情報発信や、依存症の正しい理解の普及啓発などを総合的に推進。



## 依存症対策の推進にかかる令和7年度予算案

<令和6年度予算額> → <令和7年度予算案>  
8.4億円 → 8.4億円

### ①地域における依存症の支援体制の整備

5.9億円 → 5.7億円

都道府県・指定都市等において、人材育成や医療体制及び相談体制の整備を推進するとともに、地域の関係機関が参画する包括的な連携協力体制の構築、専門医療機関や治療拠点機関等との連携体制の構築など、地域の医療・相談支援体制の整備を推進する。

### ②依存症民間団体支援

0.5億円 → 0.7億円

依存症者や家族等を対象とした相談支援や普及啓発等に全国規模で取り組む民間団体を支援する。

### ③全国拠点機関における依存症医療・支援体制の整備

1.1億円 → 1.1億円

依存症対策全国拠点機関（久里浜医療センター）において、アルコール、薬物、ギャンブル等に対応した相談・治療等について指導者の養成や情報発信等を行い、依存症治療・支援体制の整備を推進する。

### ④依存症に関する調査研究の実施

0.4億円 → 0.4億円

※ 令和6年度補正予算 2.2億円

依存症の実態解明等に関する調査研究に加え、アルコール健康障害対策推進基本計画、ギャンブル等依存症対策推進基本計画及び再犯防止推進計画に基づく調査研究や、ゲーム障害に関する知見の集積を図るなどのため、必要な調査研究を実施する。

### ⑤依存症に関する普及啓発の実施

0.5億円 → 0.5億円

依存症者や家族等が地域の治療や支援につながるよう、依存症に関する正しい知識と理解を広めるための普及啓発を実施する。

### ⑥アルコール・薬物・ギャンブル等の民間団体支援

地域生活支援事業等の内数 → 地域生活支援事業等の内数

地域で依存症関連問題に取り組む民間団体の支援を行う。

# 薬物依存症対策の取組について

## 1. 地域における相談体制・医療体制の構築

- 都道府県・指定都市において、相談拠点・専門医療機関を整備

	令和3年度末	令和4年度末	令和5年度末
相談拠点	66自治体	67自治体	67自治体
専門医療機関	52自治体	54自治体	54自治体

## 2. 薬物依存症関連の人材育成

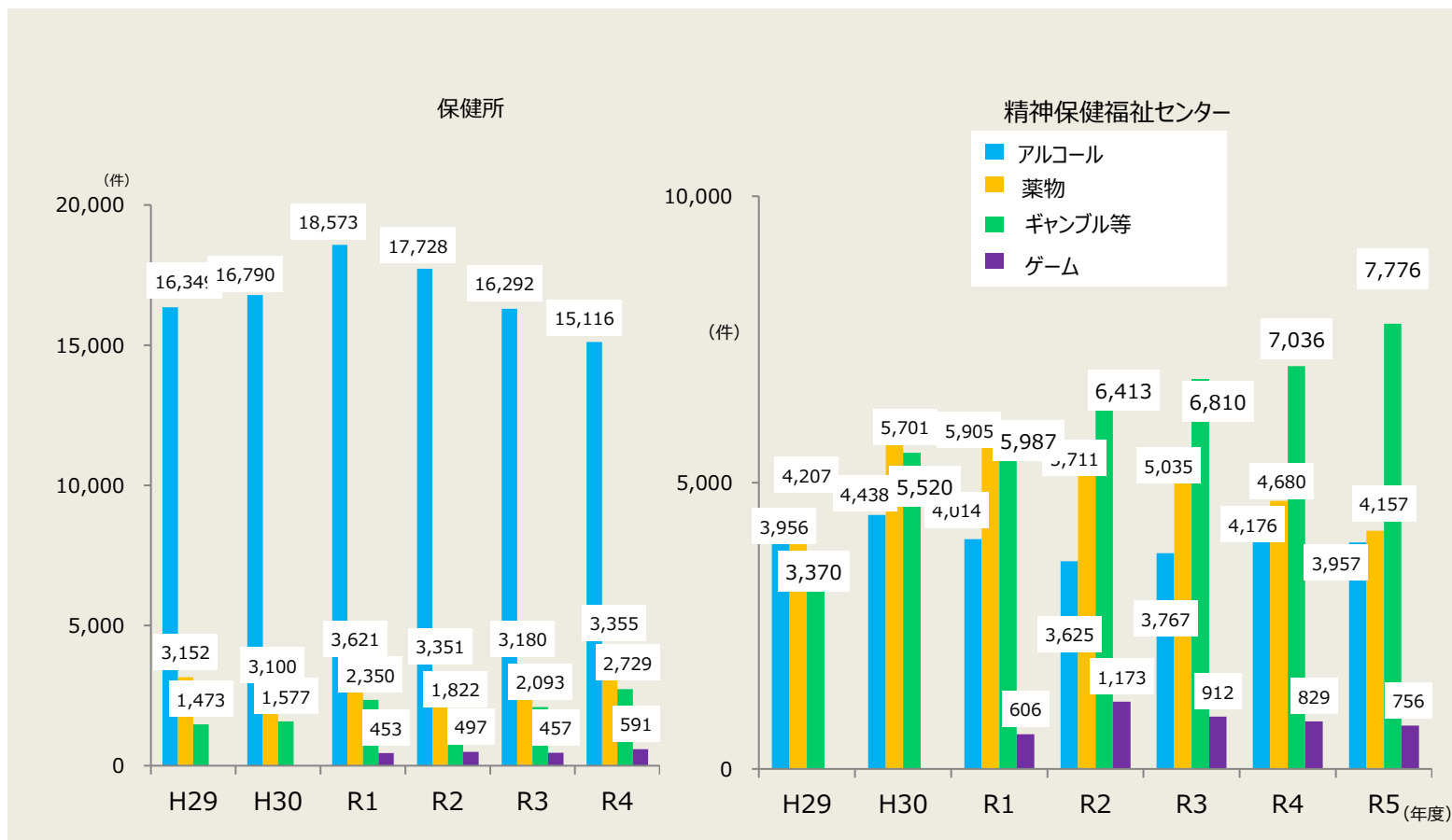
【国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター】

- 治療・相談対応指導者の養成研修、ダルク等回復施設職員向け研修等を実施

【都道府県・指定都市】

- 上記の指導者研修の修了者等を活用し、医療従事者・相談員向け研修等を実施

## 保健所及び精神保健福祉センターにおける相談件数



(出典：保健所 地域保健・健康増進事業報告、精神保健福祉センター 衛生行政報告例)

※ゲームに関する相談件数は令和元年度調査より把握している。

※ゲームに関する相談であり、ゲーム依存の状態にあるか否かは不明。

## 近年の依存症患者数の推移

		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
<b>アルコール 依存症</b>	外来患者数※ <sup>1</sup>	93,785	96,145	101,424	107,156	106,750	107,912
	(入院患者数※ <sup>2</sup> )	(29,649)	(29,205)	(29,555)	(28,998)	(27,510)	(26,020)
<b>薬物依存症</b>	外来患者数	11,728	12,370	12,905	13,631	14,028	14,022
	(入院患者数)	(3,159)	(3,143)	(3,067)	(3,081)	(2,924)	(2,811)
<b>ギャンブル 等依存症</b>	外来患者数	2,072	2,581	3,240	4,046	4,064	3,829
	(入院患者数)	(269)	(296)	(362)	(384)	(364)	(295)

出典：厚生労働行政推進調査事業費補助金「良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究」  
(精神保健福祉資料※<sup>3</sup>)

※1) 精神科における外来患者数

※2) 精神病床における入院患者数

※3) レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) を基に算出しているため、保険診療の患者に限られ、生活保護受給者等は含まれない。

# 依存症対策ポータルサイト内 相談窓口・医療機関検索マップ

アルコール健康障害・薬物依存症・ギャンブル等依存症  
**依存症対策全国センター**  
 National Center for Addiction Services Administration

ホーム 気づく 理解したい 気づいたらどうする? 制度・施設 海外の動き 交換者の皆様へ 資料 トピックス

ホーム / 気づいたらどうする? / 全国の相談窓口・医療機関を探す

## 全国の相談窓口・医療機関を探す

全国の依存症専門相談窓口と医療機関が検索できます（複数選択可）。  
 登録されている窓口及び医療機関は厚生労働省の定めた基準を満たした施設です。依存症専門医療機関の選定基準についてはこちらをご覧ください。

現在位置を表示



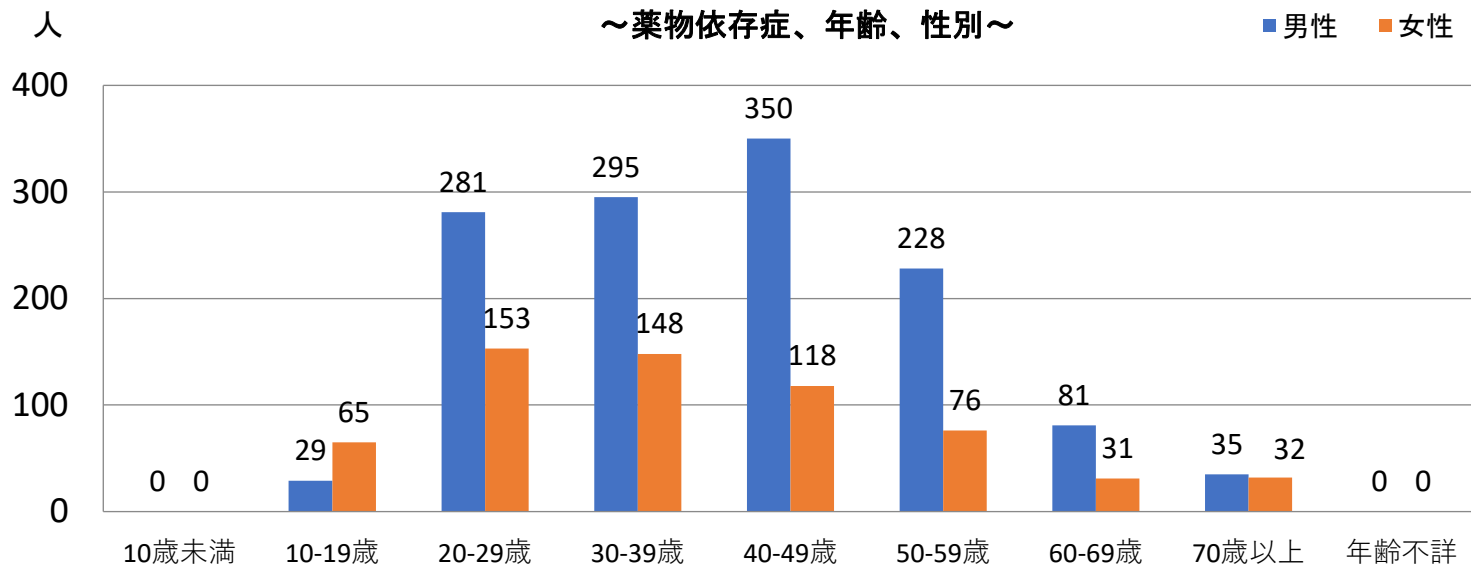
● 専門医療機関 ● 専門相談窓口 ● 依存症一般に関する相談 (※)

## 医療機関

病院名	住所	電話番号	WEB	アルコール健康障害	薬物依存症	ギャンブル等依存
独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター	神奈川県 横須賀市野比 5-3-1	046-848-1550		○		○
医療法人財団青山会 みくろべ病院	神奈川県 秦野市三遊部948番地	0463-88-0266		○	○	
地方独立行政法人神奈川県立病院機構 神奈川県立精神医療センター	神奈川県 横浜市港南区戸が谷2-5-1	045-822-0241		○	○	○
医療法人社団祐和会 大石クリニック	神奈川県 横浜市中区常生町4-41 大石第一ビル	045-262-0014		○	○	○
医療法人誠心会 神奈川病院	神奈川県 横浜市旭区川井木町122-1	045-951-9811		○		
学校法人北里研究所 北里横浜病院	神奈川県 相模原市南区麻生台1-1-1	042-748-9111		○	○	○

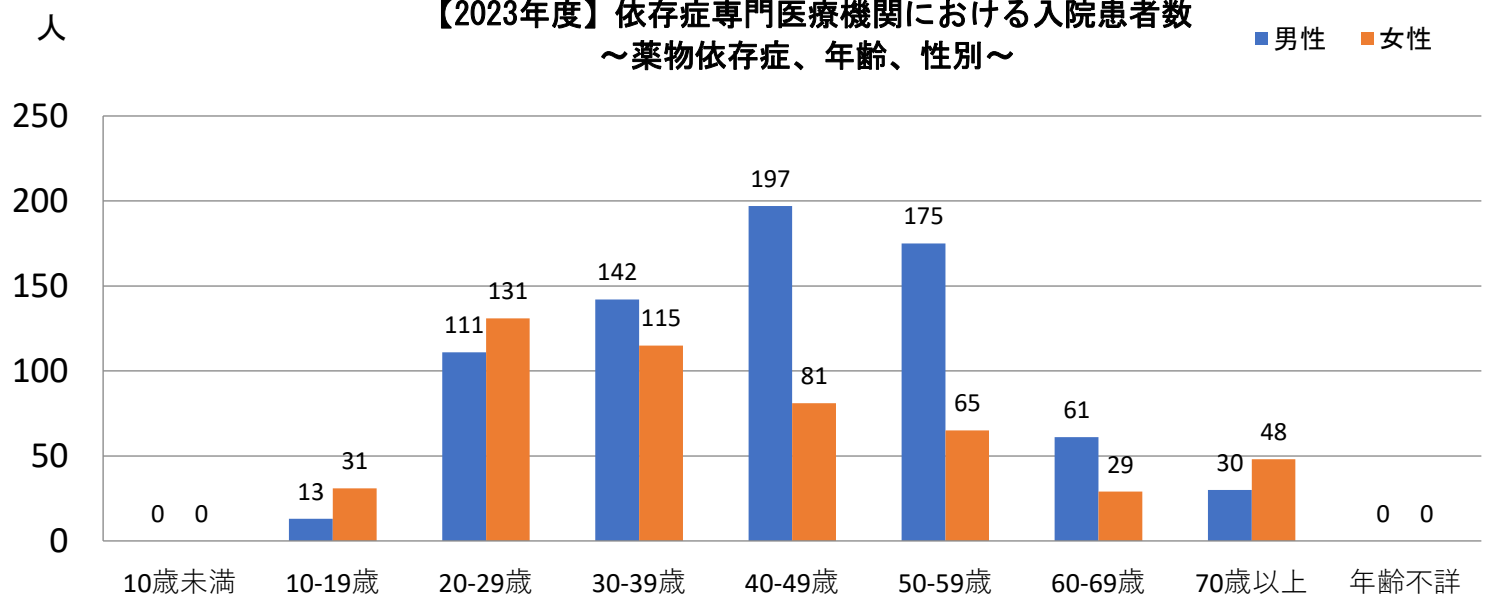
【2023年度】依存症専門医療機関における新規受診患者数

～薬物依存症、年齢、性別～



【2023年度】依存症専門医療機関における入院患者数

～薬物依存症、年齢、性別～



### 3. 治療回復プログラムの普及、診療報酬での評価

- ・ 精神保健福祉センター等において、SMARPP（薬物依存症者に対する、標準化された集団認知行動療法プログラム）等の集団治療回復プログラムの普及・実践
- ・ 医療機関において適正に実施された薬物依存症集団療法の診療報酬上の評価

#### SMARPP（せりがやメタンフェタミン再乱用防止プログラム）

##### ○薬物依存症に対する、標準化された集団認知行動療法プログラム

- \* 認知行動療法とは、物事の受け取り方や考え方のバランスをとり、ストレス等にうまく対応できるようにする精神療法。
- \* せりがや病院（現神奈川県立医療センター）にて開発され、平成18年より運用されている。

##### （方法）

- ・ あらかじめ定められたワークブックや他の参加者との意見交換を通じ、薬物等に対する誤った知識や考えを改めたり、薬物等の使用に替わるストレス克服等の手段を見つけることを支援する。
- ・ 10～20人の集団に対し、1回90分程度のプログラムを週1回行う。（1クール16回又は24回）

##### 診療報酬による評価（H28年度～）

- 薬物依存症の患者に対し、標準化された方法で実施する集団療法の評価をする。

##### 依存症集団療法 340点（1回につき）

##### [算定要件]

医師又は医師の指示を受けた看護師・作業療法士・精神保健福祉士若しくは公認心理師で構成される2人以上の従事者が認知行動療法の手法を用いて、薬物の使用を患者自らコントロールする手法等の習得を図るための指導を行った場合に算定する。

（注：薬物依存症の患者であって、入院中の患者以外のものに対して、集団療法を実施した場合に、治療開始日から起算して6月を限度として、週1回に限り算定する。ただし、精神科の医師が特に必要性を認め、治療開始日から起算して6月を超えて実施した場合には、治療開始日から起算して2年を限度として、更に週1回かつ計24回に限り算定できる。）

## 4. 依存症患者の家族支援

- ・ 精神保健福祉センター等において、家族に対する心理教育プログラムや家族会等を実施

## 5. 自助グループ等民間団体への支援

- ・ 地域や全国規模で薬物依存症の問題に取り組む民間団体の活動を支援

### 依存症問題に取り組む民間団体支援

全国規模で活動する民間団体

支援

#### 依存症民間団体支援事業

- 全国規模で依存症問題に取り組む民間団体への支援（国の補助10/10）
- 支援例
  - ・ 必要な人材を養成するための研修
  - ・ 依存症に関する普及啓発等の活動
  - ・ 支援者のネットワーク構築
  - ・ 相談支援活動 等

地域で活動する民間団体

支援

#### 依存症に関する問題に取り組む民間団体支援事業 （地域生活支援事業等のメニューの1つ）

- 地域で依存症問題に取り組む民間団体への支援（自治体から団体への支援（うち国が1/2補助））
- 補助対象例
  - （1）ミーティング活動  
依存症者やその家族が悩みを共有することや情報交換ができる交流活動。（会場提供など）
  - （2）情報提供  
依存症を抱える者やその家族の問題解決に資する情報提供。（リーフレット作成経費など）
  - （3）普及啓発活動  
依存症に関する普及啓発活動。（刊行物発行に要する費用援助など）
  - （4）相談活動  
依存症に関する問題の相談を受ける活動。（会場提供や相談専門家への謝金など）

# 令和6年度（2024年度） 依存症の理解を深めるための普及啓発

- アルコール・薬物・ギャンブルなどの依存症は、適切な治療とその後の支援によって、回復可能な疾患。
- その一方で、依存症に関する正しい知識と理解が得られていない上、依存症への偏見、差別もあり、依存症の方やその家族が適切な治療や支援に結びついていないという課題がある。
- こうした課題の解決に向けての取組として、イベントやSNSをはじめとする各種媒体で情報発信を進める。

## □ 依存症の理解を深めるための普及啓発事業

### ① アルコール関連のシンポジウムを開催

「アルコール依存症が背景にある飲酒運転」～介入・回復への支援と社会全体での安全対策～をテーマにオンラインシンポジウムを開催

令和6年11月15日 ZOOMウェビナーによるオンライン開催

進行MC：塚本堅一氏（元NHKアナウンサー）

Session1 「背景にあるアルコール依存症にどう介入するか」

Session2 「止まらない飲酒運転をどう防ぐか」等

### ② 薬物関連のシンポジウムを開催

「若者に広がるオーバードーズ～実態を理解し、支援方法を探る～」をテーマにオンラインシンポジウムを開催

令和7年2月6日 ZOOMウェビナーによるオンライン開催

出演：嶋根卓也氏（国立精神・神経医療研究センター）、橘ジュン氏（BONDプロジェクト 代表）

中村元気氏（東奥義塾中学校・高等学校 養護教諭）、

倉田めば氏（大阪ダルクディレクター）

### ③ トークイベントの開催

「依存症の理解を深めるためのトークイベント 特別授業！みんなで学ぼうお酒のこと in福岡2024」の開催

令和6年9月28日 ハイブリッド開催

出演：NON STYLE 井上裕介氏、上田航平氏（お笑い芸人・作家）、

九州女子翼（アイドル）、松崎尊信氏（国立病院機構久里浜医療センター）、

今一義氏（順天堂大学医学部消化器内科先任准教授）

### ④ 音楽イベントの開催

「依存症の理解を深めるためのトーク&音楽ライブイベント」の開催

令和7年2月26日 ハイブリッド開催

出演：相席スタート 山崎ケイ氏、山添寛氏（依存症啓発サポーター）ほか

スペシャルライブ：USU、宙也

### ⑤ 地方イベントの開催

「依存症の理解を深めるためのトークイベント みんなで知ろう ギャンブル等依存症のこと in大阪2024」の開催

令和6年10月24日 ハイブリッド開催

出演：小原プラス氏（タレント・コラムニスト）、安田大サーカス団長 安田氏、

三日月マンハッタン 仲嶺巧氏、田中紀子氏（ギャンブル依存症問題を考える会 代表）、

安東毅氏（安東医院 院長）

### ⑥ 特設WEBサイト、SNSを活用した情報発信

- ◆ 特設WEBサイト（厚労省依存症対策HPよりアクセス可）により、イベント開催マンガ、動画等により依存症に関する正しい知識を啓発

依存症の理解を深めるホームページ（<https://www.izonsho.mhlw.go.jp/>）  
依存症ナビ（<https://twitter.com/izonshonavi>）

■ 依存症の理解を深めるホームページ

■ アルコールウォッチのリリース



### ⑦ アウェアネスシンボル（Butterfly Heart）

アウェアネスシンボルマーク（Butterfly Heart）を依存症に対する治療・回復支援への応援の意思を表明する象徴として広く展開。

※「アウェアネスシンボルマーク」とは、特定の社会運動における支援や賛同を表明したり、社会問題への気づきを促す際に使用するシンボルマークのことです。



アウェアネスシンボル

